

「学校評価報告書」

1 令和4年度 学校教育目標および重点目標・教育課題

【学校教育目標】 ・自ら学ぶ ・友と学ぶ ・仁科の里に学ぶ	教育課題
	○経営理念： <u>互いの尊厳を守る学校</u>
	○教育課題： <u>自己調整学習力・自己有用感の育成</u>
	重点目標 1 学びづくり
	○主体的・対話的で深い学びを
重点目標 2 ところづくり	
○子ども一人一人が主役となる学びの場を	
重点目標 3 ふるさとづくり	
○教科横断的な学びを	

2 本年度の「成果と課題」および令和5度に向けての「向上策・改善策」

重点	成果と課題	向上策・改善策
学びづくり	少人数で日常的に授業づくりについて情報交換をしたり、授業者全員が外部の指導者に指導を仰ぐ授業公開を行ったりしながら、授業改善に取り組んだ。職員一人一人の「協働のまなび」の実践の意識が大きく高まると共に、授業改善が確実に進み、子どもたちが友と対話を進めながら主体的に授業に取り組む姿が日常的に見られるようになった。その動きを一層前進させ、「協働の学び」の質を更に高めていくことが必要である。	授業者全員に指導者がつく公開授業等、今年度の取り組みを引き続き継続すると共に、今年度キーワードとなった「単元の核心」「単元全体を捉えた授業構想」「パワーのある学習問題」「今日の結び目」等について、更に質が高まるよう研究を進めていく。また、「協働の学び」の学び方や目指す姿について児童と共有していく。
ところづくり	「協働の学び」を中心としながら、成功体験や分かる・できる喜び、友との学びを積み重ね、自己有用感の育成に取り組んできた。児童アンケートでの自己有用感に関する項目の回答について、昨年度よりも改善が見られた。ただわずかではあるがマイナス評価の児童がいる現実をしっかりと受け止め、更なる方策を検討するとともに、児童全員が安心して学べる学校づくり図っていく必要がある。	「協働の学び」を通して「ところづくり」を行うという考え方に基づき、教科学習だけでなく教育活動全般を「協働の学び」で取り組む。児童と目標を共有して支援し、達成感も共有しながら、児童の自己有用感を育てていく。また、児童全員が安心して学べる学校づくりを確実に進めていく。
ふるさとづくり	本年度は、開校150周年という大きな節目を生かしながら、西小学校の身近な自然や文化について、生活科や総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な学びを展開し、充実した学習が展開された。児童アンケートでも、95%の児童が、大町や身近にあるもの、自然、人と関わる活動をして、大町の良さがわかったと答えている。地域の方と直接関わって思いを聞いたり、質問をしたりすることでより深い学びとなることが期待できるが、コロナの影響により、地域の方と直接的に関わる機会が少なかったのが残念であった。	生活科や総合的な学習の時間を中心とした指導計画を作成し、「協働の学び」で教科・横断的な探究の学びを進める。オンライン等、コロナであっても地域の方とやり取りができる学習環境づくりをし、地域の方の思いなどに触れた深い学びの実現を図る。

3 学校長による「経営ビジョン」に対する振り返り（自己評価・総合評価：別紙参照）

4 学校運営協議会長による学校の「重点目標」への取り組みに対する評価（学校関係者評価：別紙参照）